



8月を迎え、夏休みシーズンの真っただ中です。道の駅米沢のスタッフにも気合いが入ります。

道の駅米沢は言わば置賜観光の中継地。ゲートウェイ型の道の駅として、市内外から訪れた人の流れを置賜全域へ波及させる効果が期待されています。

そこで重要な役割を担っているのが「観光コンシェルジュ」の存在です。歴史、文化、季節毎に開催されるイベントまで、置賜全域の最新の観光情報を提供している置賜観光のスペシャリスト。初めて置賜に来るお客様にも充実した旅を楽しんでもらえるように全力でお手伝いをします。



英語、中国語などに対応する観光コンシェルジュが常駐

現在では、インターネットの普及で観光情報も簡単に手に入るようになりました。だからこそ、ここまで足を運んでいただいたお客様にはおもてなしの心をもって接したい。そんな思いで日々業務に臨んでいます。

道の駅米沢にお越しの皆さん、お買い物を楽しんだ後で「これからどこへ行くのかな」と思ったら、気軽に観光コンシェルジュに声を掛けてください。



Takamasa Chisaka

千坂高雅 (1841 - 1912)



市立米沢図書館蔵

前回に引き続き、千坂高雅を取り上げます。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇  
**エピソード3**  
**英国留学と明治新政府への出仕**

戊辰戦争後、一切の職を辞した千坂高雅でしたが、間もなく有為の人材として米沢藩の要職である大参事への就任を要請されます。高雅は何度も固辞しますが、宮島誠一郎などからの懇請により明治3年に就任しました。

明治4年、高雅は米沢藩知事を免官となった上杉茂憲に従って上京し、翌年には茂憲に随行して英国に留学します。明治7年に帰国後は、内

**石川・岡山県令などを歴任し実業家としても活躍した元米沢藩家老**

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇  
**エピソード4**  
**石川県令・岡山県令、実業家として活躍**

明治12年、高雅は石川県令に任命

務省に出仕し、内務卿大久保利通のもとで猪苗代湖の疎水工事に参画するなど新政府の大事業にも携わりました。また、明治10年に勃発した西南

戦争では新政府軍の陸軍中佐として、米沢の士族300人以上を率いて九州に出陣し、反政府士族と戦っています。

されます。石川県令として、人情風俗や地域利害の異なることを理由に、明治13年に福井県、明治15年に富山県の新設を建議し実現させました。

明治17年からは岡山県令（後に岡山県知事）となります。児島湾開墾事業での県政の混乱もありましたが、明治25・26年の水害時には先頭に立って復興に尽力するなど、明治27年まで岡山県政に力を注ぎました。

岡山県知事退官後は、勅選の貴族院議員となり、その傍らで実業家としても活躍しています。両羽銀行、宇治川水電、横浜鉄道、横浜倉庫などの企業で取締役などの重役を務めました。米沢藩家老、英国留学、明治政府の官僚として培った非凡な才能と経験は、実業家としても存分に発揮されたといえます。

大正元年、高雅は72年の生涯を閉じました。墓地は、米沢市相生町にある日朝寺の千坂家墓所と、東京都大田区の池上本門寺にあります。